

以上郡ニ關スル監督ヲ述ヘタリ是レヨリ一級上ニ位スル府縣ノ監督ヲ陳ヘン

第一 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス府縣ハ直接ニ内務大臣ニ統轄セラル、モノナレバ内務大臣ハ府縣ノ行政ニ向テ監督ヲ爲スノ權アルモノトス

第二 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若クハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ内務大臣ニ提出ス可シ此ノ法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ訴出セントスルニハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可キモノトス然シテ行政裁判所ニ出訴スルヲ得可キ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルヲ得サルナリ其理由ハ既ニ郡制ノ下ニ於テ陳ヘタレハ今茲ニ之ヲ贅セス

第三 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背反セサルヤ其事務錯乱滯セサルヤ否ヤヲ監視ス可シ内務大臣ハ之レカ爲メ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算ノ書類帳簿ヲ徵シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第四 府縣又ハ府縣參事會ノ議決公益ヲ害スト認ムルハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルハ直ニ内務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ乞フ可シ此ノ項ニハ府縣トアレモ是レハ府縣會ノ謂ヒニシテ只々府縣參事會ノ議決ノミナラス其府縣會ノ議決ニシテ公益ヲ害スト認ムルハ其執行ヲ停止スルヲ得可シ郡制ニハ其權限ヲ超エ又ハ法律命令ニ背キタルハモ其議決ノ執行ヲ停止スルヲ得ルトアレモ府縣制ニ在テハ此ノ場合ニ於テ如何ナル處分權ヲ有スルカト云フニ府縣知事ハ單ニ其議決ノ執行ヲ

停止スルノミナラヌ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルキハ其議決ヲ取消スコトヲ得否ナ此ノ場合ニ於テハ必ス其議決ヲ取消サル可ラス其府縣知事ノ處分ニ不服ナルキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルナリ

第十五 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ由テ府縣ニ於テ負擔ス可キ行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖モ必要ノ給需ヲ欠クキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得ルナリ然レモ內務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得ルナリ是レ一ハ府縣知事ノ專橫ヲ防キ一ハ府縣ノ發達ヲ妨害セサランコトヲ勉メタルモノナリ

第六 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セサルキハ府縣知事ハ內務大臣

ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得是レ假令府縣會成立セス又ハ其招集ニ應セスト雖モ府縣ノ行政ヲシテ停止セシムルコトヲ得ス行政ノ發達ハ社會ト共ニ進ムモノナレハ之レカ爲メニ其機關ノ運轉ヲ停止ス可キニアラス依テ此ノ場合ニ於テハ內務大臣ノ指揮ニ由リ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルナリ尤モ其處分ヲ爲シタルキハ之ヲ次回ノ會議ニ報告セサル可ラス是レ其專橫ノ處分ヲ爲シタルニアラサル旨ヲ知センカ爲メナリ

第七 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決ス可キ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議案ヲ期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其ノ事件急速ヲ要スルモノナルキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得ルナリ但シ其議決セス又ハ議了セサル議案歲入出豫算ニ係リ內務大臣ニ於

テ原案金額ヲ不相當ト認ムルハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得ルモノトス

第八 内務大臣ハ府縣ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルハ之ヲ刪除シ及ヒ其府縣ノ資力ニ比シテ不急ノ支出ト認ムル費目アルハ之ヲ刪除若クハ減殺スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之レニ相當スル收入額ヲ減殺ス可シ

第九 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此ノ場合ニ於テハ三ヶ月以内ニ議員ヲ改選ス可キモノトス郡會ヲ解散セシムルコトハ内務大臣ノ權内ニ在リト雖モ府縣會ノ解散ハ然ラス從前ハ内務大臣ノ權内ニ在リシモ往々不都合アリシヲ以テ斯クハ鄭重ノ手續ニ至リタルモノナリ府縣會ヲ解散セシムルコト重大ノ件ナルヲ以テ妄リニ之ヲ解散スルハ全ク地方自治ノ精神ヲ奪却スルニ至ル可シ故ニ天皇ノ裁可ヲ得テ初

メテ解散セシム可キモノトス是レ亦治安ニ妨害アルノ議決ヲ爲スカ又ハ法律規則ヲ蹂躪スルノ議決ヲ爲シタルハニアラスハ解散セシムルコトヲ得サルモノト知ル可シ府縣會ノ解散スルハ名譽職參事會員モ亦解職ス可キモノトス府縣會解散ノ後結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ得ルナリ尤モ其處分ニ係リタル事項ヲ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告セサル可ラス

第十 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及ヒ大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

- 第一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若クハ償還ノ方法ヲ變更スルコト
- 第二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スルコト
- 第三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金

額ヲ定ムルヲ

第十一 又左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要ス

第一 府縣所有ノ不動産賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

第二 府縣制第七十二條第二項ニ依リ市若クハ其他ノ部分ノ負擔ヲ增加スルヲ

第三 同第七十三條ニ依リ府縣内ニ對シ特ニ夫役現品ヲ增課スルヲ

第四 同七十六條第二項ニヨリ繼續費ヲ定メ及ヒ其年期内ニ於テ議決ヲ變更スルヲ

以上ニテ府縣制郡制ノ大要ヲ述べ終リタリ依テ茲ニ筆ヲ擱ス
各國府縣制郡制原論 畢
對照

法學士斯波淳六郎講述

自治制原理 全

政治學講習會出版

自治制ノ原理目次

第一章 自治制ノ起因

第一 英吉利

十三丁

第二 佛蘭西

十五丁

第三 獨逸

十七丁

第二章 自治制ノ原則

第一 英國

三十九丁

第二 佛蘭西

四十三丁

第三 獨逸國

四十六丁

自治制原理目次終

自治制ノ原理

法制局參事官 斯波淳六郎述

我邦市制町村制ノ發布アリタルヤ其條項ヲ註釋スルノ書ハ日二月ニ世ニ顯出シ現今ニ於テハ其數實ニ枚舉スヘカラス然レモ其基ツク處ノ原理ヲ詳論スル者ニ至リテハ余未タ我國ニ其著アルヲ知ラス是レ余カ本編ヲ草シ聊カ市制町村制ヲ攻究セラル、諸君ノ參考ニ供セントスル所以ナリ本編ハ專ラ普國ノ研學グナイスト氏ノ著普國郡制論ニヨルモノナリ余ハ本編ヲ自治制ノ原理ト題シ之ヲ二部ニ分チ先ツ第一ニ自治制ノ起因スル處ノ原理ヲ論シ第二ニ自治制ノ遵據スヘキ處ノ原則ヲ論セントス

第一 自治制ノ起因

機械ノ發明ハ當十九世紀ニ於テ單ニ營業上ニ一變動ヲ生シタルノミ

自治制ノ原理

ナラス又學術上ニモ一大變動ヲ生シ茲ニ國家ト云フ觀念モ爲メニ一變スルニ至レリ

國家ヲ以テ一個人ト同一視シ我レト云フ觀念ヲ以テ國家ナルモノヲ説明セント試ミタル自然法ノ説モ最早現今ニ於テハ空論トナレリ實際ニ就テ之ヲ見レハ其説ク處ニ相反シ國家ヲ組立スルノ國民ハ却テ無形有形ノ所有獲得ノ度ニ從ヒテ其順序上下ノ差別ヲ作シ互ニ相隔離スルモノナリ而シテ無形有形ノ利得ヲ得テ之ヲ享有セントスルハ之レ又人類ノ本性ナリ

以前ハ我國ニ於ケルモ亦タ歐洲諸國ニ於ケルモ先ツ農家町家及ヒ寺院ナル三者アリテ而シテ封建制度ト共ニ武家ノ衰ヘルヤ此三者ノ上ニ治者トナリテ王家ノ官吏ナル者顯出セリ然ルニ此四者又各漸ク分離シ現今ニ於テハ地主アリ百姓アリ商人アリ工業家アリ雇人アリ勞働

者アリ官吏アリ僧侶アリ醫士アリ教師アリ學者アリ美術家アリ實ニ其種類ハ一々之ヲ枚擧スヘカラス斯ク數ヘ上ケタルモ只ニ一部ヲ列擧シタルニ過キスシテ未タ其種類ヲ盡シタリト云フヲ得ス英國ニ於テ當世紀ニ至リ曾テ職業ノ種類ヲ調査シタルニ其數一千一百ニ及ヘリト云フ而シテ此總体ヲ抱括シテ之ヲ社會ト稱シ其相互ノ關係ヲ指シソシヤール社會的關係ト稱スルハ之レ佛國ニ始マリタルコトニシテ以來歐洲各國ニ行ハル、コトナリタルモノナリ佛國ハ非常ノ爭亂ニ際遇シ早ク國家ト社會ノ互ニ相反スルコトハ之ヲ覺知シタレモ未タ以テ之カ調和ヲ爲スノ境域ニ達セス

社會ハ夫レ如斯ク錯雜ナル組織ナリト雖モ茲ニ又一一定不拔ノ原則アリ凡ソ所有ナルモノハ所有セサルモノ、隸屬ノ原因トナリ此隸屬ナルモノハ終始其者ノ生路ニ附隨シ遂ニ其全家族ノ世經ニ及ヒ遂ニハ

一代ヨリ他ノ代ニ押移リテ抑制隸屬ノ關係ヲ遺スモノニシテ此レ即チ社會ニ不自由束縛ノ原素ヲ生シ終始其絶ユルコト無キ所以ナリ然ルニ此コト又一ツノ均シク動カスヘカラサルノ原則アリ財產家ハ常ニ此隸屬ヲ維持シ之ヲ益々確實ニシ益々之ヲ擴張センコトヲ務メ之ニ反シ無財產者ハ隸屬ノ苦界ニアリテ其境界ヲ破リ其隸屬ノ度ヲ滅センコトヲ務ムルナリ如斯ニシテ水火相容レサル利害ノ競争ハ社會ノ免マカレサル状態ニシテ常ニ共同一致事ヲ爲サントスルニ當リ見解ノ齟齬ヲ生シ萬事ニ紛争ヲ醸成スルモノナリ然レモ如何セン此利害ノ競争ハ又之ヲ其自然ニ放任スルキハ遂ニ調和スルコト無キモノナリ調和和合ハ競争ノ末各自ノ熱望スル處トナルモ其局ヲ結フヤ和解和合アルコト無シ國政亂ル、ノ極民主權ノ主義起

ルヤ素ト民主權ナルコトハ其實主權ノ社會ニ歸スルト云フコトナレハ主權カ利器トシテ社會ハ益其競争ヲ烈シクシ各種利害ノ調和モ又社會上政治上ノ自由獨立モ復々得テ望ムヘキニ非サルナリ抑モ社會ノ此性質タル以上述ヘタルカ如ク人類自然ノ性ニ起因スルモノナレハ得テ動カスヘキニ非サレモ又人類ニハ德義ナルモノアリテ自己ノ自由ノ決心ヲ以テ此利慾ノ争ヲ制御スルノ天性アルコト是レ又疑フヘキニ非サルナリ斯ノ如クニシテ一個人ニ於テ德義ノ指示スル處利慾ノ向フ處ニ相反スルヤ常ニ自己自由ノ決意ヲ以テ之ヲ貫徹スルカ如ク人類ノ共同体ニ於テモ亦タ彼ノ所有ト隸屬ノ争ニ至リテハ各自ハ其身体ト財產ヲ犠牲トシ以テ之ヲ制御セサルヘカラス即チ此社會ニ對シ國家ナル組織ヲ組成シ以テ之カ調和ヲ計ルハ人類共同体ノ本性ナリ一個人ニ德

義ノ性ナシト云ハサル以上ハ國民ニ國家的精心ナシト云フヘカラス
人類ハ是レ互ニ相交ハルノ動物ナリ

茲ニ於テカ利慾ノ自然ノ傾向ニ對シ公ケノ義務ナルヲ生シ終始社會
ノ變遷ニ隨テ其組織ヲ變シ彼人現今錯雜ナル組織ヲ有スル軍務司法
財政内務寺院學校等ノ制度モ其極國民全体及ヒ個々ノ社會上及ヒ法
律上及ヒ政治上ノ自由ヲ養生シ之ヲ維持スルニアリ

如斯ニシテ此關係ハ其外形ニ於テハ警察トナリ兵役トナリ納稅ノ義
務トナリ子弟就學ノ義務トナリ裁判上証人トナルノ義務トナル等總
テ強迫ノ姿ヲ帶フルモノナリト雖モ此強迫コソ眞ニ國民ノ自由ヲ完
全ナラシムルノ要具ニシテ之レソ即チ隸屬不自由ノ起因タル社會自
然ノ傾向ヲ抑制スルノ要具ナリ

此ニ依テ之ヲ見レハ人類ノ相結合シテ國家ヲ創成スルヤ之ヲ以テ只

ニ社會ノ主旨目的ヲ擴張スルモノナリト云フヲ得ス彼ノ主トシテ英
佛兩國ニ行ハル、文化ノ見解ノ如キハ之レ大ニ人類ノ本性ヲ誤ルト
云ハサルヲ得ス國家ハ其基礎ヲ人類ノ德義心ニ取り社會ハ人類利慾
ノ性ニ基ツクナリ如斯ニシテ社會ハ單ニ目的ニ達スルノ手段方便ニ
シテ社會ノ發達ハ人類ノ目的其者ナリト云フヘカラス何トナレハ如
何ナル富豪繁榮モ苟クモ人類道德的性質ノ發達進歩ノ媒トナラサル
モノナル以上ハ是レ何等ノ價直ヲモ爲スヘキニ非サレハナリ
斯ク論シ來レハ社會ト國家ナルモノハ終始相反スルヲ疑フヘキニ非
サルナリ

歐洲諸國ハ論テ俟タス我國ニ於テモ近時財產營利ニ關スル事物茲ニ
一變シ漸ク人民ノ考慮ハ專ラ社會上ノ利害ニ注集スルノ傾向ヲ呈ス
ルニ至レリ其傾向コソ實ニ未然ニ排斥セサルヘカラサルヲトス

利益ト利益ト相競争スルハ暫ク之ヲ措キ利益ト義務ト相對峙スルノ
點ヲ論セン抑モ強迫ノ性質ヲ帶ヒ成效ヲ永遠ニ期スル國家ノ制度ハ
總テ是レ社會直接ノ利益ニ相反スルモノナリ如斯ニシテ互ニ利害ヲ
異ニスル社會ノ一部時ヲ得テ國政ニ參與スルヤ其利益ノ指示スル處
ヲ恣ニシ其利益ヲ増進スルヲ以テ參政ノ眼目トナシ社會ノ各部ハ專
ラ權柄指揮議決權等ヲ熱望シテ彼ノ國民ノ自由ニ欠クヘカラサル條
件タル負擔勞役責任等ニ至リテハ成ルヘク丈ケ之ヲ排斥センコト之レ
務メ結局社會的觀察ハ國家ナル制度ヲ以テ直接ニ營利ノ機關ヲラシ
メントスルニアリ茲ニ於テカ益々其勢ヲ違フセントスル社會ノ組織
ニ對シ之ニ對スル國家ノ相當組織ナカルヘカラス即チ人民ニ國家ニ對
スルノ義務ヲ負ハシメ強迫ヲ以テ國民ヲシテ終始之ニ從事セシメ以
テ國民ヲシテ其義務ニ慣習セシメ國民ヲシテ社會的營利ノ精心ヲ除

却セシムルノ方法ヲ設ケサルヘカラス
專政々体ニ於テハ國務ヲ舉ケテ一ツニ官吏ノ掌中ニ歸シ國民ノ全体
及ヒ各個自由ノ運動ハ全ク之ヲ抑壓シ以テ彼ノ目的ヲ達シ得ヘキモ
現今ニ於テハ自由ノ運動ハ營利社會ノ進歩ニ欠クヘカラサルモノナ
ルヨリ遂ニ歐洲各國ハ勿論我國ニ至ル迄比々皆英國ヲ模範トシ憲法
國トコソ相成リタリ
然ルニ茲ニ注意スヘキハ如斯キ政体ハ單ニ上院下院ヲ模造シタリト
テ決シテ得ラルヘキニ非サルコトヲ果シテ英國國民カ享有スルカ如キ眞
ノ自由ヲ得ントスルニ於テ只タニ上院下院ヲ模造スルヲ以テ足レリ
トセズ社會ト國家ト小ヨリ進テ大ニ至リ其段階ヲ追テ十分ナル組織
上ノ結合ヲ爲サルヘカラス
此理由ヨリ生スル第一ノ結果ハ社會ノ各異種ノ利害ヲ有スル者ニ與

フルニ直ニ政權ヲ以テスヘカラスト云フニアリ之ニ反シ若シヤ如斯キ利益ノ團結ヲ以テ國家及町村等ノ團體ヲ組織スルニ於テハ是レ國家ヲシテ營利社會ノ機關トナスモノニシテ茲ニ於テハ利害ノ競争ハ政權ヲ得テ益々其銳キヲ加フルナリヨシヤ競争其局ヲ結フニ至ルモ其結果タル各利害ヲ同フスル團結遂ニ政權ヲ分轄シ遂ニ再ヒ專政政體ヲ以テ其統一ヲ計ルニ至ルヘシ如斯ニシテ代議政體ノ決シテ如スキ社會自然ノ組織ヲ基礎トシテ之ヲ創設スヘキニ非サルナリ必スヤ先ツ各利害ヲ異ニスル者ヲシテ其地方地方ニ據リ國務ノ爲メニ團結セシメ之ニ慣練セシメ以テ其基礎ヲ置カサルヘカラスト茲ニ於テカ代議政體ニ關スル三大原則ヲ生ス今左ニ之ヲ例舉セン

一凡ソ代議政體ニ於テハ施政ヲシテ一ツニ法律ニ遵據セシメサルヘカラスト彼ノ兵權司法權警察權財政權等ヲシテ一定ノ法律ヲ遵

奉セシメ之ヲ維持スルニ行政司法ノ裁判所ヲ以テシ如斯ニシテ此行政ヲシテ時々ノ利益ノ單純ナル多數決ノ左右スル處トナラシメサルヲ要ス

二代議政體ニ於テハ此行政實施ノ爲メ必要ナル人身上ノ義務ト財產上ノ負擔ヲ社會ノ各階級ニ其資力ニ應シ分轄スヘシ

三代議政體ニ於テハ此人身上ノ義務ト財產上ノ負擔ヲ各地方ニ活動スル國種ノ性質ニヨリ一定ノ法律ヲ遵奉スル國務ノ擔當者トナシ町村郡等ノ自治體ニ編成スヘシ

如斯ニシテコソ彼ノ自己ノ利益ヲ專ラ經營シ自ラ施政ノ方法ヲ定メ且自己專決ノ方法ヲ以テ租稅ヲ徵集シタル封建時代ノ町村等ノ團體ニ對シ始メテ眞ノ行政的自治團體ナルモノ生シ施政ノ方法ヨリ稅率ニ至ル迄一ツニ法律ノ規定セサル處無ク如斯ニシテ利慾ノ競争モ遂

ニ其争フ處ヲ失フニ至リ彼ノ共同生活ノ眞ノ自由モ茲ニ至リテ始メテ其端ヲ開クヘシ彼ノ所謂自治トハ即チ社會ト國家ノ中間ニ成立スル此組織ニシテ是ヲ即チ五百年來英國憲法ノ基礎トナリタルモノニシテ又其隆盛ヲ扶ク之ヲ今日ニ維持スルモノナリ此組織タル社會上互ニ利害ヲ争フ各階級ヲシテ國務ノ爲メニ一致團結セシメ先ツ小區域ニ於テ共同ノ事務ニ慣練セシメ如斯ニシテ人類共同ノ精心ヲ養生シ之ヲ基礎トシ遂ニ立法代議院設立ノ原則ニ及フモノナリ斯ク個々ノ事柄ニ關シ常ニ法律ヲ守リ自己ノ責任ヲ以テ自ラ政治ニ參與シ之ニ慣練スルニ至リテコソ國民タルモノ始メテ國家全体ニ於ケル自治ヲモ望ミ得ヘク又之ニ應スルノ能力ヲモ得ラルヘク如斯ニシテコソ遂ニ有爲ナル立法府ヲモ形ヲ作り行政ニ對シテモ亦致密ナル監督ヲ爲スヲ得ヘシ余ハ先ツ以上述ヘタル處ヲ以テ自治制ノ起因スル原理

ノ大略ヲ述ヘタリト信スルヲ以テ以下此理ヲ英佛獨三國ノ情態ニ照シ之ヲ説明セントス

先回ニ於テ自治制ノ原理ニ付一般ニ看察ヲ下シ之ヲ説明シ來リシカ本回ニ於テハ英佛獨三國ノ例ニ參照シテ自治ノ精神骨髓トモ云フヘキモノヲ陳述セントス先ツ英國ノ例ヨリ開説セン

第一 英吉利

英國ノ國家組織ノ特質ハ如何ナル者ナル乎ト之ヲ看察スルニ原則トシテ社會ヲ以テ國家組織ノ用ニ立ツルノ仕組ナリ彼ノ諾曼ノ英國ヲ占領シタルヨリ以來財產家ヲシテ一樣ニ軍務司法及ヒ警察ノ公務ヲ負ハシメ又一様ニ租稅ノ義務ヲ負擔セシメタルコトハ遂ニ上ハ國王ノ顧問官及ヒ國會ヨリ下ハ町村ニ至ル迄必ス公ケノ團體ニ附着スルモノトシテ公務ヲ一樣ニ配置スルノ制度ヲ發生セリ而シテ先ツ第一ニ

治安判事及ヒ其四季會合ノ制度ヲ生シチ^{バートン}ードル家ノ時代ニ於テ^{バートン}寺區ノ團結ヲ益確固ニシ遂ニ十八世紀ニ至リテ財產家勞役者等ノ如キ社會上階級ヲ異ニスル者ノ間ニ均シク此ノ公務ヲ行フノ慣習ヲ養成セリ特ニ上等ノ位置ヲ占ムルモノヲシテ公務ニ從事セシムルニ至レリ」此ノ如ク社會ノ一小區域タル各團體ニ於テ皆一樣ニ其ノ費用ヲ負擔シテ恰モ彼ノ民事上ノ權利ニ於ケルカ如ク公務ニ於テモ皆一樣ニ取リ扱ハル、ニヨリ茲ニ生シタル近郷所在ノ團結ハ箇々ノ利害ノ競争ヲシテ統一ナラシムル所ノ一ノ強固ナル團結ヲ生シタリ之ヨリシテ漸次英國々民ニ公務ノ何タルヤノ思想并ニ公務ニ從事セサル可ラサルノ精神ヲ養成シ來リ而シテ此事實ハ遂ニ英國人民ニ自ラ立法及ヒ租稅議決ニ參與スルノ能力ト且ツ行政ニ對シテ一ノ勢力アル監督ヲナスノ能力ヲ與ヘタルナリ

之ヲ要スルニ英國々家ノ組織ハ社會ヲ以テ國家ノ爲メニ利用シ其社會人民ノ區々ノ利己心ヲ轉用シテ先ツ國家組織ノ一小部分タル各團體ノ公務ニ薰陶習慣セシメ而シテ後ヲ始メテ之ヲ國政ニ參與セシメ以テ他國ノ羨慕シテ措カサル彼ノ完美ナル國會ノ基礎ヲ置クモノナリ

第二 佛蘭西

歐テ佛國々家ノ組織如何ト尋ヌルニ同國ニ於テハ國家的ノ組織ヨリモ寧ロ社會的ノ組織其重キニ居ルモノ、如シ是即チ中古ノ終リニ於テ政治上ノ自由ハ全ク衰頽シテ地ヲ掃フニ至リタル所以ナリ抑モ佛國ニ於テ此ノ如ク古來ノ制度殊ニ委微衰頽ニ歸シタル所以ハ業ニ已ニ其當時ニ在リテ國家ノ組織ハ社會的ノ組織ニ其基礎ヲ置キタルニヨルモノナリ

佛國ニ於テハ國民ハ法律ヲ以テ國權ヲ規定スルノ必用ニ付テハ同國

革命ノ當時尙ホ其想像タモ有セサリキ只舊來ノ制度ヨリシテ佛國々民ハ國家ト云ヘハ必ス王國政体ニ於ケル國家ノミナ知リテ只司法上ノ保護ノ下ニアル民法上ノ權利特權等ヲ除クノ外都テノ公ケノ關係ハ一ニ主權ノ隨意制御ニ服從スヘキモノナリトノ思想而已ヲ有シタリキ斯クテ此ノ烈シキ紛争ノ後ニ至リ一ト度平民カ門地アル者ヲ打テ倒シ以テ自ラ主權者ナリト稱フルニ至リテヤ曾テ王家カ此ノ門地アル者ノ爲ニ無制限ノ國權ヲ施行シタルカ如ク此ノ新規ナル平民的ノ主權モ亦タ此ト同等ノ位置ヲ占ムル者ノ利益ノ爲ニ無制限ノ國權ヲ施行スル習慣ヲ因襲シタリ此ノ如クニシテ社會的ノ思想即チ人類自然ノ利己心ハ法律ニヨリテ已レヲ牽束スルコトヲ好マス寧ロ國權ヲ假リテ己レノ利益ヲ直接ニ増進スルコトヲ而已是レ勉ムルニ至ル如斯ニシテ遂ニ專制國ニ於ケルカ如ク都テ國家一切ノ業務ハ全ク政

府官吏ノ掌中ニ歸スルニ至リ共和的ノ思想ニ基キシ憲法ニ附スルニ專政國ノ思想ニ基キタル所ノ行政組織ヲ以テスルノ不都合ヲ顯出スルニ至リタリ

之ヲ前段英國ノ例ニ比照スルトキハ大ニ其反對ノ傾向アルヲ知ルナラン即チ英國ニ於テハ社會タル人類自然ノ利己心ヲ以テ國家ノ公務ニ流轉セシメ以テ國家ト社會トナシテ圓滑ニ調和セシメタリ之ニ反シテ佛國ニ於テハ國家ハ全ク社會的ナル利己心ノ機關トナリ國家的ノ公務心ハ社會的ノ利己心ノ爲ニ併吞セラレ國家真正ノ公務ハ社會各階級ノ左右スル處トナルモノナリ

第三 獨逸

獨逸ノ國家組織如何ヲ顧ミルニ彼ノ門地ノ消滅シテヨリ以來國權ハ全ク專務官吏ノ掌中ニ歸スルニ至レリ然レモ此ノ新組織ニ於テモ尙

従前ノ國家及社會上ノ秩序ハ全ク消滅シタルニ非サリキ斯クテ政治上ノ權利ハ尙特種ノ社會上ノ階級ニ附帶シテ生存セリ此ノ如クニシテ此移替リノ組織ニ於テハ新舊双方ノ秩序依然トシテ存在シ一方ハ其舊秩序ヲ維持セント欲シ他ノ一方ニ於テハ新秩序ヲ擴張セント熱心ニ勉メタリ此ノ如ク新舊双方互ニ其利益ヲ争フニ當リテヤ國家ハ職トシテ此社會上ノ利益ヲ異ニスル者ヲシテ國家ノ組織中ニ獨立ノ位置ヲ保持セシメサル事ニ從事セサルヘカラス從來ノ國權ヲ特種ノ財産ニ附着セシメタル慣習ハ自治ニ附スルニ自主(オートノミ)ナル封建時代ノ思想ヲ以テシ自治ナルヲ以テ彼ノ封建時代ニ於ケルカ如キ區々ノ自主獨立ヲ維持シ又ハ舊來ノ封建制度ヲ回復スルノ手段ナリトシ社會的ノ利己心ヲ増進セシムルノ方法ナリトナスノ思想ヲ惹起シタリ

此ノ如クシテ恰モ彼ノ佛國ニ於テ憲法ノ定義ヲ誤謬シタルカ如ク獨逸ニ於テハ自治ト云フ義ニ附スルニ全ク其性質ノ相同シカラス寧ロ反對ノ定義ヲト云フヘキモノヲ與ヘタリ而シテ千八百五十年ノ町村郡州ノ諸制ヲ議定スルニ當リテ此ノ精神ハ尙ホ顯著ナリキ然レトモ其後二十餘年ヲ經テ始メテ現今ノ郡制ヲ設定シタルキハ已ニ此精神ハ消滅シテ此ノ新郡制ニ於テハ正當ナル自治精心ハ十分ニ採用セラレタリト云フヘシ

以上述ヘタル所ヲ以テ自治制ノ基因スル處ノ原理ニ付キ其要領ヲ了リタレハ以下自治制ノ遵據ス可キ原則ニ付テ論究ス可シ

第二 自治制ノ原則

抑英國國會制度ノ基礎ナリトシテ世ニ知ラレタル彼ノ自治ナルモノハ封建時代ノ地方共同体ノ行政自治体ト變体シタルモノニ外ナラス

而シテ此ノ自治トハ他ノ國ニ於テハ一ツニ國家ノ官吏ノ掌中ニ歸スヘキモノトナシタル内國行政ナル國家ノ職務ヲ地方ニ分轄シ郡及町村ノ團結ヲシテ此内國行政ノ施行機關トナシタル者ナリ
此ノ如クニシテ此自治ハ社會ノ各階級ノ者舉ケテ自己ノ責任ヲ以テ法律ノ施行ニ參與セシムル者ナリトス恰モ國會制度ニ於テ之ニ反シテ此社會ノ各階級ノ者ヲ以テ立法府ヲ組織スルカ如シ即一方ニ於テハ國會制度ニヨリ社會各階級ノ者ヲ以テ立法府ヲ形造クリ法律ヲ制定セシメ他ノ一方ニ於テハ地方ニ於テ自己ノ責任ヲ以テ其制定シタル法律ヲ施行セシムルナリ是即現今ノ自治團體ノ中古封建時代ノ地方共同体ト其性質ヲ異ニスル點ナリトス
凡ソ自治ナルモノハ法律ノ規定ニ基キ完全ナル行政法ニ基クヘキ者ナリ現今ニ於テ全体ハ一部ヲ支配スルトノ原則ハ疑フ可ラサルモノ

ニシテ當時ノ自治体ハ單ニ國家ナル大團體ヲ組織スル一分子ニ過キサルコトハ既ニ疑フ可キニアラサルナリ此ノ法律ノ規定トハ總テ國家全体ト其一部トノ間ニ一致ヲ要スル各點ニ干係スル處ノモノニシテ即自治体ノ區域、目的物、機關、主体及負擔ニ關スルモノナリトス此等諸點ハ何レモ社會各階級ノ直接ノ利益ト國家ノ永續ニ必用ナル處ノ條件ト相反スル處ノ諸點ニシテ此等ノ事項ハ必ス法律ヲ以テ之ヲ規定セサル可ラサルナリ今以上ノ諸點ニ付逐一説明セン
(一)自治体ノ區域 自治ノ區域ヲ定ムルニハ先ツ現在ノ州郡町村等ノ共同体ニ基礎ヲ取ラサル可ラス若シ之ニ基カサルハ必用ナキニ反テ自治ノ施行ヲ困難ナラシムル傾向アル者ナレハ成ル可ク丈ク現在ノ負擔ニ基クヲ要スル者トス自治体ニ關シテ町村郡州等ノ如ク各上下ノ階級ヲ定ムルニ付テハ英國ノ制度先ツ最小ノ團體ニ其負擔シ得

ル丈ケノ身体上及財産上ノ負擔ヲ負ハシメ其力ノ及ハサル處ニ至リテ始メテ郡ナル一層大ナル團體ノ負擔トナシ遂ニ此ノ團體ニ於テモ尙其力ノ及ハサル處ニ至リテ直接ノ國家ノ行政ヲ以テ之ニ當ラシムルノ原則ニ基ク者ナリ

(二)自治体ノ目的物 自治ノ目的物トスル處ハ自治体固有ノ權利ヲ施行スルニアラス又社會的利益ヲ計ルニモ非ス只所謂内國行政タル國家ノ職務ヲ國家ニ代リテ施行スルニ外ナラス即英國ニ於ケル陪審官ノ職務ノ如キ警察ノ行政ノ如キ徵兵ノ如キ貧民救助初等教育道路ニ關スル行政ノ如キ地方稅并ニ地方共有財産ノ徵收及ヒ管理ノ如キ此等諸種ノ内國行政タル國家ノ職務ヲ施行スルニ外ナラス而シテ此自治行政ノ範圍ハ其事務ノ性質如何ニヨリテ定マルモノニシテ即チ地方團體ノ能ク其力ヲ以テ施行シ得ラルベキ地方ニ活動スル處ノ國家

ノ事務ヲ以テ其範圍トス彼ノ外交司法軍務ノ如キハ國家ノ名義ヲ以テノミ之ヲ爲シ得ヘキモノナレハ地方團體ハ之ヲ施行スルヲ得サルナリ此ノ如クニシテ自治團體ハ其事件ニ於テ幾分ノ制限ヲ有スルモノナリ何トナレハ國家ノ事務ハ只ニ地方ノ各部ニ於テ行ハレ得可キ事務ニ限ラサレハナリ彼ノ國家カ外國ニ對スル總テノ干係ノ如キ常備兵間接稅司法及國內行政ノ主タル部分ノ如キ總テ是レ地方ニ分割セラル、コヲ許サルモノナリ其性質トシテ地方自治ノ範圍外ニ在ルモノナリ

(三)自治ノ機關 自治ノ機關ハ上下ノ役人ヨリ成立スル者ナリ而シテ此ノ自治ノ役人ハ純粹ノ官吏タル性質ヲ有スル者ナリ其有スル處ノ權利榮譽及其義務責任ノ如キハ一ツニ國家ノ官吏ト異ルコトナシ又其任命黜陟ノ原則ニ至リテモ國家ノ官吏ト異ナルヘキニアラサルナリ

只タ其名譽官吏タルニヨリ其性質ノ結果トシテ幾分ノ變例ナキコハアラサレモ全体ヨリ之ヲ見ルハ普通官吏ト同様ナリト云フヲ得ヘシ

此ノ如ク國家ノ官吏ト自治ノ官吏ト全ク同一ナリト云フ可キ徵憑ハ英國ニ於テ時々國家有給ノ官吏ニ代ユルニ自治共同体ノ無給ノ名譽職ヲ以テシ又自治共同体ノ名譽職ニ代ユルハ國家ノ官吏ヲ以テシタル實例アルヲ以テモ之ヲ徵スルニ足ル

(四)自治ノ主体 自治ノ主体トハ即其共同体ノ區域内ニ於テ名譽職タル身体上ノ義務ヲ負擔シ得ル總テノ者ヨリ成立ス自治ハ其性質トシテ何等ノ特權財産ニ基クヘキモノニアラス此ノ自治ニ付テ財産上ノ制限ノアルコハ只後世ニ至リテ始メテ生シタル者ニシテ何レノ時代ニ於テモ其自治ノ自治タルヘキ性質ニ欠ク可ラサル要素ニハアラサ

ルナリ

(五)自治團體ノ負擔 自治ノ負擔ノコトニ付テハ身体上ノ務メヲ以テ第一トス只タ之ニ加フルニ各自カ其共同体ニ屬スル處ノ財産ノ額ニ從ヒテ負フ處ノ義務ナルモノアリ

總テ自治ト云フ事ハ前段既ニ縷述シタルカ如キモノニシテ役ト税トヨリ成立スルモノナリ此課税ト勞役ノ結合ハ國家及社會ノ變遷ニ伴隨シ變遷スルト雖モ此組織ノ眞面目即精神タルベキモノハ一ツニ社會ト國家トナシテ組織上ノ結合ヲナサシムルニアリ即社會ト國家ノ反對ヲ調和スル者ニシテ社會上各其利益ヲ異ニスル利己心ヲシテ一ツノ統一シタル國家ノ意思ニ結合スルモノナリ

社會ノ上中下財産家中等勞役人三階級ノ一致ヲ維持スルハ即チ此ノ自治ノ精神骨髓トモ云フヘキナリ自治ハ此ノ上等ノ階級ノモノニハ

益多クシテ且ツ重キ義務ヲ負ハシメ此等ノ者ハ常ニ法律ニ從ヒ公平
ヲ旨トシ國家共同ノ爲メニ已チ犠牲ニシテ其事務ヲ取扱フニヨリ益
勢力ヲ得榮譽ヲ享ク若シ此等ノ者カ自治共同体タル國家ノ事務ニ從
事セサルニ於テハ其勢力ト社會的財産ノ勢力ト變シ轉シテ益下等社
會人民ニ對スル抑壓ニ流ル、ノ傾向ヲ有スヘキナリ左レハ自治ハ國
會制度ノ基礎ヲ形造クルモノナリ何トナレハ一小區域ニ於テ人類ノ
他ノ人類ニ對シ常ニ其盡スヘキ義務ヲ盡スニ於テハ一個人ハ自所得
所有満足權柄ヲ旨トスル自然ノ利己心ヲ脱スルニ至リ而シテ此ノ郡町
村等ノ團體内ノ社會上ノ生活モ從テ國家ノ爲メ又共同ノ爲ニスルノ
精神ヲ以テ充滿セラ、ルニ至ルヘシ而シテ此精神ハ專制國ニ於テハ其
無道ノ政ヲ行フニ於テハ元ヨリ言テ俟タサルモ其所謂仁政ヲ行ヒ完
全ヲ盡ス者ニ於ケルモ僅ニ官吏ノ占有トナルニ過キサル處ノ者ナリ

トス

又此ノ自治体ハ之ニ其基ク處ノ國會ニ其權利ト共ニ公平ニ立法ニ從
事シ有爲ニ國家ノ行政ノ監督スルノ能力ヲ與フルモノナリ又此ノ自
治ハ國民ニ法律思想ヲ養成スルモノナリ此事ハ社會上各一箇人カ利
益ヲ計ルト云フノ方針ヨリシテハ到底起ルベカラサルノ事柄ナリ其
ノ思想トハ全体ト一箇人ノ關係ヲ鞏固ニスル一定ノ規則ヲ必要トス
ル感覺ヲ云フナリ

自治ハ國會ノ元質ヲ根本ヨリ矯正スルモノナリ國會ノ根本基礎タル
人民ニシテ常ニ營利ニ走り自己ノ利益ヲノミ之レ計ルモノタル以上
ハ國會ハ眞ニ利害競争ノ集點トナリ國家全体ノ政治ノ方向モ又此競
争ノ勝敗如何ニヨリテ左右セラル、ニ至ルヘシ自治ハ即チ其根本ニ
溯リ之ヲ矯正スルモノナリ即チ此利己ノ慾心ヲ抑制シテ人民ニ公益

ヲ計ルノ共働ノ精心ヲ養生スルモノナリ何トナレハ自治ハ近郷團體ニ於テ人民ヲシテ常ニ公共ノ爲メニ公ケノ事務ニ從事セシモノニシテ人民ニ於テ既ニ之ニ訓練スル片ハ自ラ自己ノ利益ヲノミ之ヲ計ルノ自然ノ傾向ヲ脱却シ公共ノ事務ニ從事スルノ義務アルヲ悟リ遂ニ共働ノ精心ヲ發生スルニ至ルヘケレハナリ如斯ニシテ自治ハ彼ノ專制中央集權ノ制ニ於テハ其如何ナル善美ナル状態ニ於ケルモ尙ホ單ニ國家ノ官吏ノ專有トナルヘキ此共働ノ精心ヲ社會一般町村郡市ニ之ヲ普及セシムルモノナリト云フヘシ其根本タル人民ニシテ夫レ斯如ク常ニ公共ノ爲メニ働クノ念慮ヲ抱キ彼ノ自己ノ利益ヲノミ之レ計ルノ利己心ヲ脱却セサル以上ハ如何ナル純良ナル國會ヲ望ムモ亦タ得ヘキニ非サルナリ故ニ謂フ自治ハ國會ノ性質ヲ其根本ニ遡リテ矯正スルモノナリト

如斯ニシテ自治ハ國會ニ與フルニ能ク公平ニ立法ノ重任ヲ盡シ又有爲ニ國家行政ニ對シテ監督ヲ爲スノ權利ト共ニマダ能力ヲ以テスルモノナリ

終リニ臨テ茲ニ尙ホ一言スヘキハ此自治ナルモノハ又行政ニ對スル國會ノ干涉ニ制限ヲ附スルモノナルヲ是レナリ抑モ此自治ナルモノハ社會ト國家ノ中間ニ立ツ一ツノ獨立体ヲ以テ法律執行ノ任ニ當ラシムルモノニシテ而シテ此團體ニ於テハ一ツノ獨立ノ生存ヲ有スルヲ以テマダ中央政府ニ於ケル黨派軋轢ノ爲メニ左右セラル、ノ恐レナシ此獨立シタル機關アリテ法律ヲ執行スルニ非サレハ中央ニ於ケル黨派ノ軋轢ハ遂ニ行政ノ全体ニ影響ヲ及ホシ一黨勝テ國會議場ニ制スルヤ忽チ法律ノ執行モ其黨派ノ利害ノ爲メニ左右セラル、ニ至ルヘシ此レ即チ自治ノ黨派政略ニ制限ヲ附スル所以ニシテ此自治アリ

テコソ黨派ニ自由ノ運動ヲモ免ルヘク又中央ニ如何ナル黨派ノ軋輓アルモ地方ニ於テハ更ニ之カ影響ヲ受クルコト無キヲ得ルナリ如斯コシテコソ中央ニ如何ナル黨派ノ自由ノ運動アルモ法律ノ執行ニ至リテハ毫モ爲メニ偏頗ヲ來タスノ恐レナク茲ニ始メテ人民ノ權利モ確實ナルコトヲ得ルモノナリ

要スルニ自治ノ根據トスル處ハ人民ヲシテ慣習トシテ自ラ國務ニ從事セシムルニアリ而シテ是ソ即チ彼ノ社會ニ凡ソ人類ハ各自ノ時々直接ノ利害競争ノ範圍ヲ脱シ國家ナル組織ニ於テ一ツノ獨立永遠ノ生活ヲ爲スヘキ者ナルノ看念ヲ養生スル所以ノ原力ナリ是レソ即チ人類各自ノ互ニ相ヒ異ナル處ノ意思ヲ結合シテ一ツノ強勢ナル全体ノ意思ヲ醸生スルモノナリ

英國ニ於テハ此主義ニ基ツキタル強固ナル制度尙ホ今日ニ現存スル

ト雖此制度タル又一方ニ偏シ過キタル者ニシテ今日ノ社會ノ營利的傾向ニ全ク相ヒ反對スル者ナリト云フノ一點ニ於テハ到底批難ヲ免ル、コト能ハサルモノナリ之ヲ換言セハ此制度ハ全ク地方共同体ノ理財的性質ヲ顧ミサルモノニシテ最早今日現存ノ地方團體ノ理財的發達ニ適應スルコト能ハサル處ノモノナリ

彼國ニ於テ治安判事^{ジャステスオフピース}ノ制起リタルヤ漸次郡ニ於テハ治安判事ノ政治的(理財的ニ對ス)事務益々重大トナリ治安判事ノ職權ハ單ニ警察權ニ限ラス他ノ行政事務ニモ及フコトナレリ如斯ニシテ郡ニ於テハ只ニ警察ノミナラス共有財産ノ管理、租稅ノ賦課等ノ事項モ亦々治安判事ノ全權ニ屬スルコトナレリ市ニ於テモ亦々之ト均シク警察ハ從前ノ市ノ行政事務ト共ニ市役^{マニストラ}ナル合議體ノ職權ニ歸シ而シテ此市役ナル者ハ過半ノ市ニ於テハ一般人民ニ於テ殆ント何等ノ之ニ參與スルコトナ

ク只門地世襲ニヨリテ定マル處ノモノナリトス其後市郡ノ區別ヲ問ハス一般ニ貧民救助及道路行政ノ爲メ町村ノ責務益々増加シタルモ是レ亦ターツニ彼ノ治安判事ノ支配ニ属セリ斯クテ町村ノ行政ハ殆ント全ク此治安判事ノ任命スル處ノ警察官貧民救助及道路行政監督官ノ司トル處トナリ町村ノ行政ハ全ク治安判事ノ掌中ニ歸スルニ至レリ如斯クシテ遂ニ十八世紀ニ至リ地方行政ノ主タル職即チ治安判事ノ職ハ遂ニ財産ニ附隨スル處トナリ治安判事ノ職ニモ亦タ再ヒ門地ノ原素ヲ輸入スルニ至リ自治ノ擴張ハ單ニ此特種ノ者ノ利益トナリ一般人民ノ自ラ町村ノ行政ニ參與スルコトハ茲ニ全ク消滅シタリト云フヘシ

然ルニ營業社會ノ發達ト共ニ此關係モ亦ター一變セサルヘカラサルノ姿ニ到達シタリ今其理由ヲ尋ヌルニ先ツ市ノ行政ニ於テハ費用益々

多キヲ加ヘ遂ニ租稅ヲ納ムル處ノ人民ト此狹隘ナル範圍ノ中ニ更迭スル市役トノ間ニ非常ノ軋轢ヲ生シ千八百三十二年撰舉法改正以來ハ此新タニ起リタル營業社會ノ請求漸時勢力ヲ得テ遂ニ千八百三十五年ノ市制ハ市ニ代議會ヲ創設シ之ニ附スルニ其共有財産ノ管理ト租稅賦ノ議決ノ權トヲ以テシ之カ財産ノ保續ヲ計ルカ爲メ長年月ノ任期ヲ以テ撰出セラルヘキアルダグメン參事會員ヲ置キ而シテ彼治安判事ノ職權ニ至リテハ單ニ之ヲ警察及ヒ其他ノ政治的ノ事務ニ制限セリ續テ此ノ市ニ於ケル新制度ハ町村ニ迄波及セリ

抑モ此改革タル其主眼トスル處ハ地方代議會ヲ設置スルニアリテ是即チ彼營利社會ノ此改革ニ向ヒ要求スル唯一ノ點ナリトス斯ノ如クニシテ撰出セラレタル代議會ハ理財ニ係ル行政事務ヲ掌ル處ノ行政機管ヲ組織ス然ルニ此代議會ハ治安判事ノ如ク行政的審判ノ權ヲ有

セサルヲ以テ此職務ハ費用ノ支出ト吏員ノ任命ト財産ノ管理ヲ監督スルニ過キサリキ而メ此代議會ニ對スル監督ニ至リテハ中央政府其官吏ヲ派出シ以テ之ヲ監督シ又彼ノ代議會ノ任命シタル有給吏員ヲ罷免スルノ權ヲ以テ行政全体ノ統一ヲ計レリ抑モ此制度ノ性質タル人民ノ自ラ行政ノ煩務ニ當ルヲ要セスシテ有給吏員ヲシテ代リニ之ニ當ラシメ己レ代議會ニ於テ單ニ之ヲ監督スルニ過キサレハ人民ニ其煩勞ヲ省キテ却テ其利益ヲ保護スルノ便ヲ與フルモノナリ斯クテ此制度ハ營利社會ノ大ニ便利トスル處トナレリ然レモ兎角一利一害ハ數ノ免カレサル處ニシテ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルハ此改革ハ地方行政ノ責務ヲ舉ケテ有給吏員ニ放任スルノ結果ヲ來タスヲ以テ人民ヲ彼ノ自ラ國家ノ事務ニ當ルノ完良至美ノ慣習ヲ脱却セシメ地方行政ノ獨立ヲ消滅シ再ヒ中央政府ノ強固タル

監督ヲ發生シ中央集權ノ組織ヲ蘇生スルノ大不都合ヲ生スルニ至ル此ノ改革ノ結果タルヤ彼ノ國會ノ根本タル地方團結ノ消滅セシムル者ニシテ即チ英國國民ノ彼ノ貴重スヘキ共働ノ精心ヲ撲滅スル處ノ者ナリ

英國ノ輿論殊ニ「タイムズ」新聞ノ如キハ此點ニ付大ニ批難シテ止マザリシカ而カモ之ヲ改良スルノ道ヲ講セズ其他世人ハ此代議會ノ新制ト從前ノ自治ノ制度トハ互ニ相ヒ反スルモノナルヲ知リタレモ未ダ此者ヲ調和スルノ策ヲ知ラザリキ抑モ此營利社會ノ傾向タル人類自然ノ營利的ノ性質ニ基ツクモノニシテ國家ノ傾向ト均シク是レ又人類固有ノ性ニ基ツクモノナレハ何レヲ撲滅セントスルモ亦タ得ヘキニ非サルナリ仍テ此二者ニ於テハ單ニ之ヲ調和スルノ外ナシ而シテ此調和タル此代議會ノ理財的ノ職務

ト治安判事ノ政治的ノ職務ヲ組織的ニ結合スルニアリ
此地方代議會ノ精心ト自治ノ精心トヲ組織的ニ結合スルコトハ英國ニ
於テハ已ニ市ノ組織及ヒ道路行政機關ニ於テ之ヲ見ル處ニシテ此二
ツノ傾向ハ英國ニ於テハ依然トシテ併出シ決シテ其一ツノミ存シ他
ノ一ツ全ク消滅スルコトヲ得サルモノトス何トナレハ一方ニ於テハ
英國ノ國會ハ近世ニ至リ益々營利的社會ノ代表者ノ如クナリテ營利
的社會ノ便利トスル地方代議會ノ制ハ之ヲ翼賛セサルニ非サレモ又
他ノ一方ニ於テハ國務ニ參與スル者ノ間ニ行ハル、看察ハ概シテ舊
來ノ制度即チ治安判事陪審官其他ノ名譽職ニ關スル舊來ノ制度ヲ維
持保存セントスルニアリテ此等ノ制度ノ消滅ヲ欲セサレハ間接ニ舊
來ノ自治ノ方針ヲ翼賛スルノ傾向ヲ有スレハナリ而シテ此二個ノ方向
ハ歐洲各國ニ於テ現ニ其生存ヲ爭フ處ノ者ニシテ其事情ノ異ナルニ

隨ヒ各相異ナル處ノ結合ヲ醸生スルモノナリ

此ノ如ク英國制度ノ沿革ノ概略ノミヲ見ルモ尙現在存スル處ノ制度
ハ各々其國其場所ノ事物ノ干係ヨリ生スル實際ノ經驗ニ基ク者ニシ
テ自國ノ制度ヲ改良スルニ當リテ一ニ他國ノ内部ノ制度ニ其根據ヲ
採ラントスルカ如キハ其結果ニ於テ大ニ怪マサルヲ得サルコト明カナ
リ抑自治ナル者ハ地方團體ヲシテ其國ノ行政法ヲ掌ラシムルノ機關
トナスニ在リテ英國ニ於テハ英國ノ行政法ヲ掌ラシムルニ治安判事
及ヒ其他ノ機關ヲ以テシ普國ニ於テハ普國ノ行政法ヲ掌ラシムルニ
郡長グランドライト其ノ他ノ機關ヲ以テス故ニ英國ノ治安判事ヲシテ普國ノ行政法
ヲ掌ラシメントスルモ亦タ得ヘキニ非ス又之ニ反シテ普國ノ郡長ヲ
シテ英國ノ行政法ヲ掌ラシメントスルモ之レ又爲シ得ヘキニ非サル
ナリ

之ニ依テ之ヲ見レハ一國ノ自治制度ト云ヘハ即其國ノ行政法ヲ執行スル爲メニ設クル處ノ制度ニ外ナラサルナリ左レハ自治制度ハ其國ノ法律其國ノ吏員其國ノ地方稅ヲ根據トシテ之ヲ設定シ彼ノ外國ノ制度ノ如キハ單ニ之カ參考ニ供スル以テ足レリトス今マ左ニ以上反覆陳述セシ處ヲ英佛獨ノ事情ニ昭シテ尙詳細ニ說明セントス

英國

英國ニテ所謂自治トハ上等及ヒ中等ノ階級ニ屬スル人民ヲシテ名譽吏員トナリ地方ノ地稅ヲ以テ國ノ法律ニ遵據シ郡及ヒ町村行政ノ事務ヲ執行セシムルヲ云フ此ノ仕組ハ財產上各階級ヲ異ニスル者ニ對シ其階級ニ應ジテ公共ノ義務ヲ分配シ以テ地方共同体ニ國家ノ事務ヲ委任スルニ在リ是即チ英國自治ノ性質ニシテ彼ノ國會制度ノ基礎トナリ憲法行政法ノ根據トナリ英國人民ノ權利ノ基トナル處ノ者ハ

即チ此ク組立テラレタル地方自治体ニ外ナラス
此干係ヲ了解セントスルニハ少シク沿革ニ涉ルノ嫌ナキコ非ルモ英國ニ於テハ十八世紀ノ國會制度ノ最モ盛ナル時ニ該リ撰舉資格ヲ有スル處ノ人民ハ二十万人内外ニ其内三千乃至四千人ハ郡又ハ市ノ治安判事ニシテ其内十万人ハ交互更代シテ陪審地方警察官貧民救助監督官道路監督官及ヒ其他ノ名譽職ヲ帶フル者ナリシヲ記憶セサル可ラズ此ノ如クニシテ國會議員ハ此等ノ撰舉人ノ撰舉ニ係ル處ノ者ナレハ其國會ハ此等ノ人民ノ實驗ト其實力ノ集合中心トナリ居リシナリ彼ノ英國國會カ國中最上ノ權力ヲ收攬スルニ至リタル所以ノ者蓋シ職トシテ此ノ確乎タル基礎ノ在リシニ由ラスンハアラス英國國會ニシテ其基礎ヲ爰ニ執ラスシテ他ニ之ヲ求メタランニハ此ノ如キ勢力ハ到底得テ望ムヘカラサリシヤ疑ナシ然ルニ其後千八百三十二年

ノ撰擧法改正ニヨリ撰擧人ノ範圍大ニ擴張セラレ次キニ千八百六十七年ノ撰擧法改正ニヨリテ終ニ撰擧人ノ數ハ二百十三万八千人ノ多キヲ計算スルニ至リ而シテ之ニ對スルニ亦タ他ノ一方ニ於テハ此等ノ撰擧人ノ名譽職トナリ其近郷傳体ノ爲メニ自ラ實務ニ參與スルヲノ代リニ漸次有給ノ吏員ヲ以テ其實務ヲ執ラシムルヲ以シタリ如斯ニシテ撰擧人ハ彼ノ以前ノ實驗ト實力ヲ失ヒ茲ニ撰擧人中單ニ社會上利害ヲ共ニスル者ヨリ成立スル處ノ團體ノミヲ殘存スルノ現象ヲ呈スルニ至リタリ

此變動ノ原因ハ英國ニ於テモ佛國ニ於ケルカ如ク漸次政治上ノ特權ハ財産ニ附隨スル者トナリ而シテ此事タル復タ十九世紀ノ營業上ノ變動ト到底兩立スルヲ能ハサルニ依ルモノナリ此變動ノ結果タル遂ニ國家ト人民トノ中間ニ成立スル處ノ彼ノ自治制度ヲ撲滅スルニ至レリ

即チ此新シキ社會ニ於テハ未タ之ニ代ハル處ノ良制度ヲ發見スルコトナク徒ラニ此自治ナル制度ヲ消滅セシムルニ至レリ此ノ如クシテ漸次自治ナル思想ハ一變シ今日ニ於テ自治トシ云ハ以前ノ自治制トハ正反對ニシテ國家ノ上級官吏ノ監督ノ下ニ在ル地方代議會ト其議決ヲ執行スル有給役員トヲ以テ組織セラレタル自己ノ利益ヲ計ル處ノ共同集合体則チ之ヲ換言セハ利益ヲ同フスル者ノ組合ヲ指スモノ、如クナリタリ如斯ニシテ地方共同體ハ最早國家ノ行政ヲ執行スルニ非スシテ其自己ノ利益ヲ計ルノ機關タルニ過キサレハ其狀恰モ各地方ニ數多ノ小ナル國會ヲ起スカ如シ斯クテ一方ニ於テハ地方共同體ハ各其地方ノ利益ヲ是レ計ルヲ以テ國家ニ於テ之ニ對シ嚴密ナル監督ヲ爲サ、ルヘカラス而シテ復タ他ノ一方ニ於テハ代議會ナルモノハ撰擧人各自ノ利益ヲ計ルヲ以テ此地方共同體ハ亦タ人民ニ對

シ獨立ナルヲ得サルナリ故ニ此ノ如キ地方團體ハ上ニ對シテモ亦タ下ニ對シテモ全ク其獨立ヲ有セサル者ト云ハサルヲ得サルナリ尙之ヨリ奇怪ナルハ歐洲大陸ニ於テ地方制度ヲ改革スルニ當リ英國ノ自治ノ原則ヲ主張シ之ニ模倣シテ町村市郡洲等ノ代議會ヲ設立セントノ企圖アリタルコト之ナリト此ノ制度ハ社會上利害ヲ共ニスル者ヲシテ各々之ニ應スル處ノ各種ノ代議會ヲ組織セシムルコアレハ此社會上互ニ利害ヲ異ニスル處ノ各種ノ團體ヲ機械的ニ一ノ國家ニ結合セントスルコハ其全体ヲ制御スル處ノ警察權ト中央集權ノ制度トヲ以テスルニ在ラサレハ到底ナシ能ハサルノ業ナリトス彼ノ佛國ニ於ケル那勃列翁ノ計畫ノ如キ即チ此方向ヲ取りタルモノト云フヘシ

佛蘭西國

佛國ニ於テハ中古ノ末業ニ既ニ國家ハ利益ヲ共ニスル各種ノ團體ニ分列シタリ而シテ此ノ各種ノ團體ヲシテ再ヒ結合セシムルノ計畫ハ今日ニ至ル迄未タ成就セサル處ナリトス該國ニ於テハ營利的社會ハ常ニ彼ノ責任アル名譽職及ヒ地方稅ヲ忌避スルト甚シキヲ以テ地方ノ制度ハ只彼ノ英國ノ新制度タル地方代議會ノ制ニ達スルトチ得ルニ過ギズシテ彼ノ英國ノ固有ノ自治トハ大ニ其面目ヲ異ニスル者ト云フベシ是必竟佛國ノ社會ハ國家的ノ思想ヲ全ク脱却シテ專ラ社會的ノ思想ニ流ル、結果ト云フヘシ兎ニ角英國ノ自治トハ大ニ其性質ヲ異ニスルモノニシテ其類似スル處ハ彼ノ英國ノ代議會ニアル者トス此ノ如クニシテ國家ノ事務ハ英國ノ新制度即チ代議會ノ制度ニ於ケルカ如ク專ラ專務官吏ヲシテ之レヲ司ラシム然レモ素ト國家ノ性質タル時々變更スル者ニアラサルカ故國家ノ行政ヲ統一スル爲メ之ヲ

監督スルノ必用ヨリシテ勢地方ノ吏員ヲシテ全ク中央廳ニ從屬セシメサルヲ得ス此ノ如クシテ彼ノ町村郡市縣ノ代議會ハ只此實務ヲ執ル所ノ執行官ノ傍ラニ佇立シテ毫モ其勢力ヲ有セサル者ナリ
斯クテ地方ノ行政ハ全ク中央廳ニ從屬スルモノナリ而メ此從屬タル彼ノ自治ニ於テ各地方ノ行政ヲシテ法律ニ遵據セシムルノ代用ヲ勉ムル者ト謂フベシ斯クテ佛國ニ於テハ訓令ニヨリテ政ヲ施スコアルヲ知リテ法律ニ遵據スル地方自治ノ思想ナシ各自ノ利益ヲ計ル處ノ代議會ヲ必要トスレバ地方ニ於テ法律ヲ遵奉シテ獨立政ヲ施ス思想ハ夢ニダモ知ラサル處ナリ
之ヲ要スルニ佛國ニアリテハ國家ノ法律ニ對スル地方吏員ノ責任ナルヲ知ラスシテ之ニ代ユルニ全ク營利的社會ノ多數ニヨリテ行政ノ事務ヲ執行スル處ノ大臣責任アルヲ知ルノミ

此ノ如クニシテ國權ハ茲ニ全ク社會的營利ノ要具ト爲リ利害競争ノ目的物ノ集合點トナルノ弊ヲ生スルニ至リタリ

獨逸國

獨逸ニテハ舊來ノ社會ノ秩序ヲ代表スル者ハ「スタイン、ハルデンベルグ」ノ立法ノ旨趣ナリトシテ舊制度ニ基キタル特權即身分ニ附着スル特權、領地ニ附隨スル警察權或ハ裁判ノ特權等ノ者ヲ再興シ專ラ之ヲ擴張センコトヲ勉メ之ニ古來ノ組合ノ制及ヒ寺院ノ自主權ノ制ヲ加ヘテ此等ノ都テノ制度ニ附スルニ自治ノ名稱ヲ以テセリ
又新ニ起リタル營利的社會ノ思想ハ專ラ代議行政機關ヲ設ケ其地方ノ利害ニ關スル事件ヲ議決スルノ權利ヲ得ントスルニ在リテ其最妥當ナル主義ニ從フモ尙地方代議行政機關ヲ設立シテ其目的ヲ達セントシ其ノ過激ナル主義ヲ主張スル者ニ至リテハ租稅許否ノ權ヲ有ス

ル郡市町村ノ代議會ヲ設立センコトヲ勉メ之レニ附スルニ自治ノ名稱ヲ以テシタリ

夫レ此ノ如ク舊制ヲ挽回セントスル黨派モ又營利的社會ノ主義ヲ旨トスル黨派モ其自治ヲ主張スルノ點ニ至リテハ相互ニ共同一致スル處ナリ且ツ此等ノ者ハ自治ヲ主張シ以テ自己ノ權利ヲ擴張センコトヲノミ是レ勉メ之ニ相對スル必用ナル義務ニ至リテハ勉メテ之ヲ排斥セントスルノ點ニ於テハ其主義ヲ共ニス而シテ當時專ラ行政ノ實務ニ參與シタル專務官吏モ亦自治ト云フコトニ就テハ一般ニ之ヲ排斥セサリシ者ノ如ク何トナレハ專務官吏ハ自治ノ何タルヲ悟ラス自治トハ只地方ノ理財的共同ノ事務ヲ地方ニ委任スル者ナリト想像シ決シテ官吏社會ノ犯スベカラサル特權トスル處ノ國家ノ事務ヲ地方ニ委任スル者ナリトハ夢ニダモ想像セサレハナリ

此クテ獨逸ニ於テ自治ノ制ヲ行ハントスルヤ各黨派ハ其表面ニ於テハ均シク之ニ賛同一致シタリシカ其眞意ノアル處ニ至リテハ各其意見ヲ異ニセリ然レモ茲ニ各其見解ノ異ルニモ關セス各黨派ノ均シク一致シタルノ點トハ自己ノ發議ヲ以テ責任アル名譽職及新規ノ租稅ヲ負擔スルコトヲ欲セサルコト之ナリ

斯クノ如クニシテ自治ナルモノハ何國ニ於テモ政府ノ發議ニ依ルコト非サレハ決シテ得ラルヘキ者ニ非スシテ之ヲ單ニ社會的ノ思想ニ放任スルキハ決シテ其發生ヲ見ルコト能ハサルモノナリトス彼ノ普國ノ自治制施設ノ如キモ其發議ハ普國政府ノ發議ニ係ル者ナリキ今其一班ヲ舉示センニ

普國ニ於テ自治制ヲ布ントセシハ既ニ「スタイン、ハルデンバルグ」ノ時ニアリテ其發議ハ政府ニ出テタル者ナリトス其后普國政府ハ此改革

ノ方向ヲ一轉セリ爰ニ於テカ黨派ノ間ニ起リシ問題ハ舊制度ニ基キタル特權ト新制度ニ基キタル特權トノ爭トナリ當時ノ郡制改革ハ此理由ヨリシテ主トシテ議決ノ點ニノミ注意ヲ下シ地方人民ヲシテ自ラ行政ノ實務ニ當ラシムルノ點ニ至テハ毫モ顧ミサル者ノ如シ是レ此改革ノ彼ノ「スタイン、ハルデンベルグ」ノ主義ト大ニ其趣旨ヲ異ニスル點ナリトス然レモ其當時舊制度ニ基キタル秩序ノ挽回ヲ試ムル者ハ專ラ地方團體ヲ以テ其回有ノ財産ヲ管理シ其固有事務ヲ司ル處ノ團體トナサンコトヲ主張シ加之當時ノ法律家ニ於テモ其常ニ慣習シタル私法上ノ看察ヨリシテ地方團體ヲ以テ私法上ノ法人ト同視セシカ故ニ是又其當時ノ社會ノ輿論ニ裨益ヲ與ヘタリ其尤妥當ナル沿革主義ヲ稱フル法律家サヘ尙私法ノ思想ヲ以テ自治團體ヲ私法的ノ法人ノ如ク思惟スルニ至レリ

然レトモ自治ト云ヘル名義ヲ以テ再ヒ中古時代ノ制度ニ復歸スルト云フカ如キハ最早爲シ能ハサル處ニシテ即彼ノ封建制度ニ於ケルカ如ク各獨立スル主權者同様ノ地方團體ヲ再ヒ造設スルカ如キハ到底行ハルヘカラサルノ事態ナリトス必竟スルニ獨逸ニ於テハ都テ地方ノ行政ハ國家ノ法律及ヒ財政ノ下ニ位スル者ナリトノ思想ハ未タ消滅シタルニ非ス而シテ此思想ハ一時消滅セシカ如ク見エシモ現今營利的社會ニ於テ互ニ利益ノ爭ノ局其一方ハ到底他ノ一方ヲ壓倒シテ之ヲ從屬セシムルコトハ爲シ能ハサルコトナリト云フノ思想ヲ生スヘク而シテ已ニ此思想ヲ生シタル以上ハ隨テ各再ヒ國家ノ法律及ヒ財政ニ從屬セサル可ラサルノ思想ヲ生スルニ至ルハ蓋シ勢ノ免ル可ラサル處ナリ然リ而シテ其利害ヲ異ニスル何レノ黨派モ他ヲ從屬スルヲ能ハサルノ感覺ヲ惹起シ到底國家ノ下ニ從屬セサルヘカラサルヲ

悟ルニ至リ茲ニ始メテ國家ハ自治ノ制度ヲ施スノ時期ニ達シタル者ト云フヘキナリ即彼ノ國會制度ヲ起スニ當リテ專制國ノ行政機關ノ構成上ニ生スル欠點ヲ補ヒ茲ニ其基礎ヲ置クノ時期ニ到達シタル者ト云フヘシ彼ノ普國ノ新郡制ノ草案ハ即チ此點ニ基テ成立セシ者ニシテ普國ノ政治上ノ一大進歩ヲ代表スル者ナリト云フヘキナリ以上述ヘタル處ヲ以テ余カ説明セント欲シタル自治制ニ關スル二點ノ論題ヲ述ヘ盡シタリト信スルヲ以テ余ハ茲ニ此稿ヲ終ラントス

自治制原理終

朕府縣制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

內閣總理大臣兼內務大臣 伯爵山縣有朋

法律第三十五號

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自ラ變更スルモノトス

本條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム但特

ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 府縣會

第二條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

郡布ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員ヲ撰舉セシムヘシ

第三條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市會及市參事會會同シ市長

ヲ會長トシ郡ニ在テハ郡會及郡參事會會同シ郡長ヲ會長トシ左ノ規定ニ依リ之ヲ行フヘシ但會長ハ投票ニ加ハラサルモノトス

一 投票ハ選舉人自ラ會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス投票ハ匿名トス

二 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニアラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス

三 有効投票ハ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り年齡相同キトキハ會長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

第四條 府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ有シ其府縣ニ於テ一年以來直接國稅十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會ノ被選權ヲ有ス住居ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同府縣内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍府縣會ノ被選權ヲ有ス

其府東京府ハ警モ縣ノ官吏及有給吏員神官諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ府縣會議員タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セント欲スルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

府縣會議員ハ衆議院議員ヲ相兼ヌルコトヲ得ス

第五條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ毎二年其半數ヲ改選ス若其員數二分シ難キトキハ初會ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初會ニ於テ解任スヘキ者ハ府縣會議長府縣會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

解任ノ議員ハ再選セララル、コトヲ得

第六條 議員中闕員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第七條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

第八條 選舉ヲ終リ當選人ノ定マリタルトキハ郡長市長ハ直ニ當選人ニ通知シ及府縣知事ニ報告スヘシ

當選人其當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ其期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ府縣知事ニ届出ヘシ

前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ總テ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

第九條 當選人其當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ府縣知事ハ其郡市ヲシテ十日以内ニ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第十條 當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ

及管内ニ告示スヘシ

第十一條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ルコトヲ得

第十二條 當選人當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサリシコト發覺スルトキハ其當選ヲ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第十三條 府縣會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ

第十四條 府縣會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ府縣參事會之ヲ裁決ス府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 府縣會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

一 府縣ノ歳入出豫算ヲ定ムル事

二 決算報告ヲ認定スル事

三 府縣稅ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 府縣有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事

五 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

六 府縣有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事
其他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第十六條 府縣會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第十七條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ
府縣會ハ其府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付府縣知事又ハ内務大臣ニ建議スルコトヲ得

第十八條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受クヘカラサルモ

ノトス

第十九條 府縣會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長及副議長各一名ヲ互選スヘシ其任期ハ議員任期ニ從フ

議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時議長ヲ互選スヘシ

第二十條 府縣知事若ハ特ニ知事ノ委任ヲ受ケタル府縣ノ官吏若ハ吏員ハ府縣會ノ議事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第二十一條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク通常會ノ會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ七日以内ヲ會期トシテ臨時會ヲ開クコトヲ得

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ

告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニアラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第二十二條 府縣會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 府縣會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十四條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第二十五條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第三條ノ規定ニ依ルヘシ

第二十六條 府縣會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員五名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルト
キ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ

第二十七條 東京府京都府大坂府府會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專
ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモ
トト分別スルコトヲ要スルモノアルトキハ府會ノ議決ニ依リ之ヲ
分別スルコトヲ得

前項ノ分別ニ依リ專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノハ其郡部
議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其他
ノ部分ニ關スルモノハ市部議員ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議
決ニ加ハルコトヲ得ス此場合ニ於テハ郡部議員市部議員ニ於テ各
臨時議長ヲ互選スヘシ

此法律中東京府京都府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都

市大阪市市會ニ於テ選舉シタル議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京
市京都市大阪市ヲ除キ其他ノ部分ニ於テ選舉シタル議員ヲ云フ

第二十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日
ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井及他人ノ身上ニ涉リ言論
スルコトヲ得ス

第三十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル
議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシ
ム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ
又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官
ニ命シテ之ヲ退去セシムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ
之ヲ閉ツルコトヲ得

第三十一條 議員中議場ノ秩序ヲ紊ルコト二回以上ニ及フ者アルトキハ議長又ハ議員ノ發議ニ依リ議會ノ議決ヲ以テ七日以内其出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十二條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者アルトキ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ警察官ニ命シテ之ヲ退場セシムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第三十三條 府縣知事若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏若ハ吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第三十四條 第三十條第三十二條ニ依リ議長ノ命ニ應セシムル爲府縣知事東京府ハ警視總監ハ每會期警察官ニ議場掛專務ヲ命スヘシ

第三十五條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム書記ハ議長之ヲ選任ス

第三十六條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記錄セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前議會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第三十七條 府縣會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ内務大臣ノ認可ヲ受テ之ヲ施行スヘシ

第三章 府縣參事會吏員及委員

第三十八條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トス郡部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選シ市部議員ニ於テ其議員中ヨリ四名ヲ互選スヘシ

縣ノ名譽職參事會員ハ四名トス縣會ニ於テ其議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十九條 府縣參事會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職ノ高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

第四十條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス

第四十一條 府縣會ハ每通常會ニ於テ名譽職參事會員ノ補充員府ハ八名縣ハ四名ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ府縣知事ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十二條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期滿限ノ後ト雖後任者就職ノ日マテ在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル

場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第四十三條 府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ

一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事

二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決ヲ爲ス事

三 府縣會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ府縣有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

四 府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 府縣知事及其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 府縣知事ヨリ發スル府縣會議案ニ付府縣知事ニ意見ヲ述ヘ及

會議ニ報告スル事

十六

七 臨時必要アルトキ府縣ノ出納ヲ検査スル事

其他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第四十四條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

第四十五條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者及名譽職會員半數以上

出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但第四十三條第二ノ議決ヲ爲ストキハ高等官會員ハ其議決ニ加ハラサルモノトス

府縣參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第四十七條 府縣參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十八條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第四十八條 市制町村制ノ規定ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ郡市町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄スヘキ府縣參事會ヲ指定スベシ

第四十九條 東京府京都府大阪府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ
 專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノハ其郡部名譽職參事會員ニ
 於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス其東京市京
 都市大阪市外ノ市町村若ハ郡ニ關スルモノハ市部名譽職參事會員
 ニ於テ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
 此法律中東京府京都府大阪府府會ノ市部名譽職參事會員トアルハ
 市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云ヒ郡部名譽職參事
 會員トアルハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員ヲ云フ
 第五十條 府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ施行シ及府縣有
 財產及營造物ヲ管理シ竝ニ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行
 ス

府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ知事ノ
 外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中府縣會又ハ參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ其議決
 ヲ經タルモノハ總テ其旨ヲ記入スヘシ

第五十一條 府縣會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成
 立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル
 迄府縣知事ハ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコト
 ヲ得

非常事變ニ際シ府縣參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會
 員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ權限
 ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次回ノ府縣會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十二條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ費用ヲ以テ府縣
 有財產若ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給ノ府縣吏員
 ヲ置クコトヲ得但府縣吏員ハ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

府縣吏員ノ給料手當退隱料等ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルト其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ府縣事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ府縣有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得其撰舉又ハ選任ノ方法及任期ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル
委員ハ名譽職トス

第四章 府縣ノ會計

第五十四條 府縣有財產及營造物管理ノ費用府縣會府縣參事會及委員ノ費用府縣吏員ノ給料退隱料其他諸給與及從來法律命令若ハ慣例ニ依リ並ニ將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ府縣ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第五十五條 名譽職參事會員及委員ニハ旅費滯在手當及出務日當ヲ

給スルコトヲ得府縣會議員ニハ旅費及滯在手當ニ限り之ヲ給スルコトヲ得但滯在手當出務日當ヲ併セ一日一圓五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十六條 府縣ノ支出ハ府縣稅其他府縣ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

第五十七條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ル

第五十八條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ニ依リ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ其府縣ノ全部若ハ市制施行ノ地ニ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得但家屋稅賦課ノ地ニ於テハ戶數割ヲ賦課スルコトヲ得ス
第五十九條 府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラズ

府縣内ニ一戸ヲ構ヘ三箇月以上ニ及フ者ハ其戸數ニ對シテ府縣稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ一戸ヲ構ヘタル初ニ遡リ徵收スヘシ

第六十條 府縣稅ノ賦課ニ付テハ納稅者カ其府縣外ニ於テ店舖ヲ定メタル營業ノ收入ヲ其標準ニ算入スルコトヲ得ス

第六十一條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律命令又ハ府縣會ノ議決ニ抵觸スルコトヲ得ス

市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

第六十二條 營業ノ狀況又ハ收入ヲ標準トシテ賦課スル府縣稅ニ付テハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ賦課額調査ノ爲其府縣内郡市ニ調査委員ヲ置クコトヲ得

第六十三條 府縣稅ノ免除ハ市町村稅免除ノ規定ニ依ル

第六十四條 府縣會ハ府縣内郡市町村ノ土木工事又ハ府縣内ノ教育衛生勸業及慈善ノ事業若ハ營造物ニ對シ補助金ヲ與フルコトヲ議決スルコトヲ得

第六十五條 府縣會ハ家屋稅又ハ戸數割ノ全部又ハ一部ノ代納トシテ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニ對シ夫役又ハ現品ヲ出スヲ許スコトヲ議決スルコトヲ得

第六十六條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收スヘシ但日割ヲ以テ徵收スルモノハ此限ニ在ラス

納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ當該官廳ニ届出ヘシ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スヘシ

物件ヲ目的トシテ納期ヲ定メテ一定ノ額ヲ賦課スル府縣稅ハ其納

期ニ於テ納稅義務ヲ負フ者其額ヲ納ムヘシ
府縣稅ノ前納ニ係ルモノハ其義務ノ消滅シ又ハ他人ニ移轉シタル
場合ト雖之ヲ還付セス但其義務ノ移轉ヲ受ケタル者ハ其前納期限
ノ終迄納稅セサルモノトス

第六十七條 府縣稅ハ法律命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除
クノ外各市町村長ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收スヘ
シ

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對シ錯誤アルコトヲ發見シタル者ハ徵
稅傳令書ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ其傳令書ヲ發シタル廳ニ申立
ルコトヲ得但申立ノ爲其納稅ヲ拒ムコトヲ得ス

第六十九條 前條ノ申立ヲ爲シタル後二十一日以内ニ其更正ヲ得サ
ルトキ又ハ其更正ヲ得ルモ之ニ不服ナルトキハ十四日以内ニ郡參
事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ其裁決書ヲ交付シ

又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ四日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ府縣參
事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但市
ニ在テハ府縣參事會ニ訴願シ府縣參事會ノ裁決ニ不服ナルトキハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十條 府縣稅ノ免稅若ハ納稅延期ハ特別ノ事情アルモノニ限リ
府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得
府縣稅ノ滯納處分ハ國稅滯納處分法ニ依ル

第七十一條 東京府京都府大阪府ニ在テハ府ノ支出ニ充ツヘキ府稅
ヨリ市部及郡部ニ分賦ス其分賦ノ割合ハ府會ニ於テ之ヲ議決シ內務
大臣ノ認可ヲ受ケテ施行スヘシ
前項市部ノ分賦額ハ市ニ於テ之ヲ市ノ豫算ニ編入シ市稅トシテ徵
收シ其總額ヲ府金庫ニ納ムヘシ郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依

リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議事ニ參與ス及議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ若議長副議長市部議員ナルトキハ郡部議員ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ

第七十二條 市制施行ノ府縣ニ在テハ郡廳舎建築修繕費郡吏員給料旅費及廳費ハ市ヲ除キ其他ノ部分ノミヲシテ其負擔ニ任セシムヘシ

前項ノ府縣ニ在テハ其府縣ノ支出費目中市ト其他ノ部分ト利害ノ厚薄ヲ異ニシ均一ノ負擔ニ任セシムコトヲ得サルモノアルトキハ其費目ニ限り其一方ノ負擔ヲ増加スルコトヲ得但負擔ノ割合ハ府縣會ニ於テ之ヲ議決シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ内務大臣之ヲ確定ス

第一項ノ負擔ニ任セシメ及第二項ニ依リ一方ノ負擔ヲ増加スルハ

賦課ノ稅率ヲ増加スルニ止メ其會計ヲ異ニスルコトヲ得ス但東京府京都府大阪府ニ在テハ前條ニ依ル

前項ニ依リ稅率ヲ増加スヘキ稅目ハ府縣會ノ議決スル所ニ依ル

第七十三條 府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ該部分ニ對シ通常府縣稅賦課ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第七十四條 府縣ハ其舊債元額ヲ償還スル爲又ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府縣ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ府縣會ノ議決ヲ以テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

府縣債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ
歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ収入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス
但府縣參事會ノ決ヲ經ルコトヲ要ス

第七十五條 府縣知事ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ
豫算ハ府縣會ノ議決ニ付スルノ前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若
府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ
内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十六條 豫算ハ毎年府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ並ニ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ
府縣ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得
豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ其府縣有財產表ヲ提出スヘシ
第七十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ府縣知事ニ於テ府縣參事會ノ議決ヲ經テ已ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第七十八條 府縣ノ收支命令ハ府縣知事之ヲ發スヘシ

第七十九條 會計事務ヲ管理スル官吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第八十條 決算ハ會計事務ヲ管理スル官吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ府縣知事ニ提出シ府縣知事ハ府縣參事會ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ內務大臣ニ報告シ並ニ決算ハ府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第八十一條 府縣ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス

第八十二條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ內務大臣ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第八十三條 內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂澁滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徵シ並ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十四條 府縣又ハ府縣參事會ノ裁決公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メザルトキハ直ニ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ超ユ又ハ法律命令ニ背クト

認ムルトキハ府縣知事ハ其議決ヲ取消スヘシ此場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ不服ナルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八十五條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ府縣ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但內務大臣ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十六條 府縣會招集ニ應セス又ハ成立セザルトキハ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ
第八十七條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知セラレタル議

案ヲ第二十一條第一項ニ定メタル期限内ニ議了セサル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セス又ハ議了セサル議案歲入出豫算ニ係リ內務大臣ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第八十八條 內務大臣ハ府縣ノ歲入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其府縣ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十九條 府縣會ノ解散ハ勅令ヲ以テス此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改選スヘシ
前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
府縣會解散ノ後改選了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキ

ハ府縣知事ハ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ

認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ府縣債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スル事

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 府縣有不動産賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

二 第七十二條第二項ニ依リ市若クハ其他ノ部分ノ負擔ヲ増加ス

ル事

三 第七十三條ニ依リ府縣内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

四 第七十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第九十二條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十三條 市制町村制施行ノ爲定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之ヲ適用ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲將來ノ諸稅ニ付直接稅ト爲スヘキモノハ内務大臣及大藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十四條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノ
トス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加
稅徵收ノ許可ハ東京市京都市大坂市ニ在テハ地租七分ノ三、二五、二
十八分ノ十三其他ノ市ニ在テハ其七分ノ一、五、十四分ノ三ヲ超過ス
ルトキ之ヲ要スルモノトス

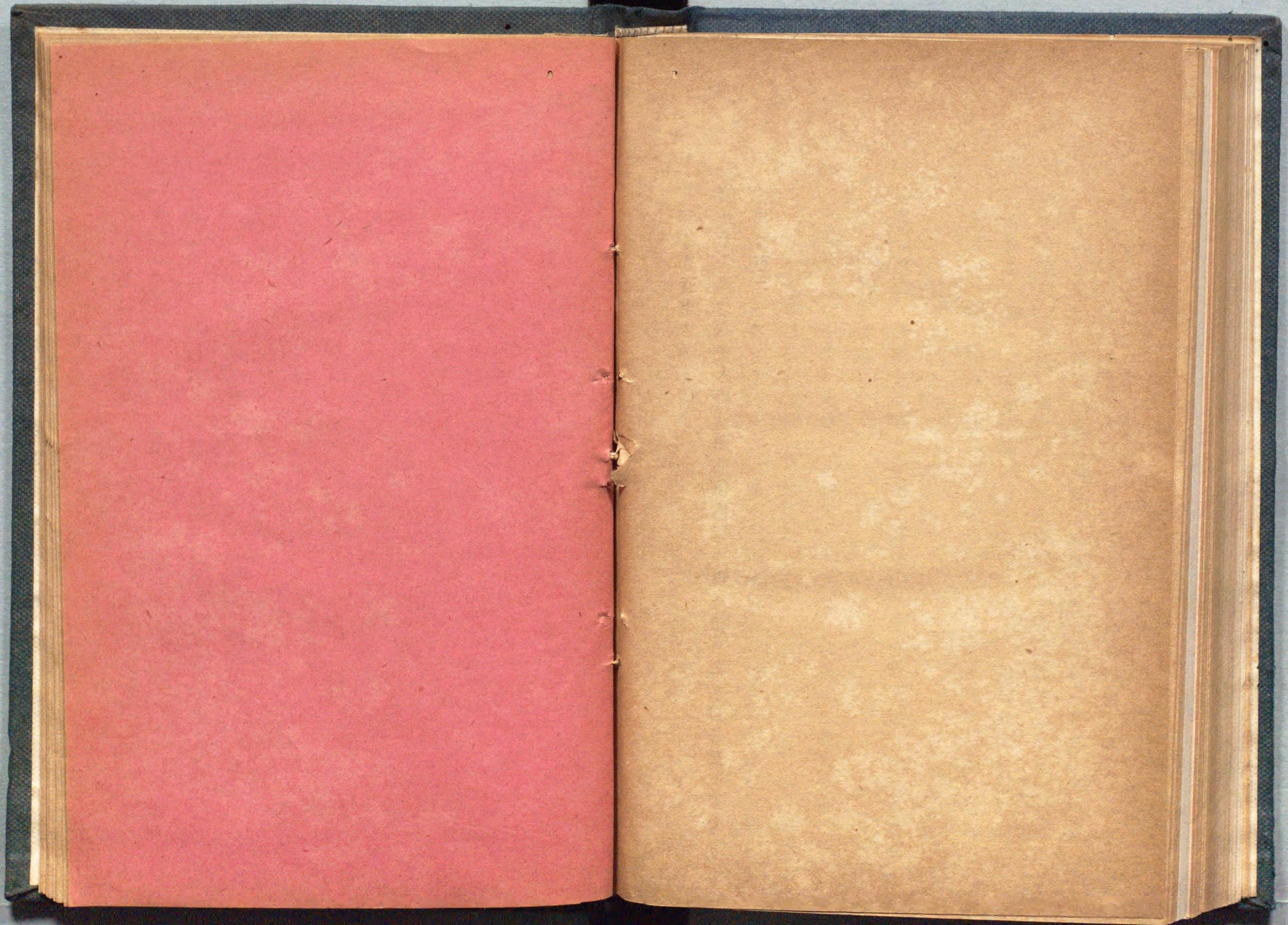
第九十六條 府縣内ニ在ル嶋嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令
ヲ以テ特例ヲ設ク

郡制ヲ施行セサル嶋嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關シテ
ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第九十七條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十四年二
月第八號布告區郡部會規則明治二十二年二月法律第六號府縣會議
員選舉規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ時期ヨリ總

テ之ヲ廢止ス

第九十八條 内務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令
ヲ發布スヘシ



朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

内閣總理大臣兼内務大臣 伯爵山縣有朋

法律第三十六號

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スル
モノトス

第二條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト

爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財産處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 郡會

第四條 郡會ハ郡内町村ニ於テ選舉シタル議員及大地主ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ増シテ十名ニ至ルコトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改選スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其町村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上ノ議員ヲ選舉スルハ其各町村會會同シテ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四條乃至第六條ノ規定ニ關シテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員選舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ選舉スヘキ議員定數ノ外其定數ノ三分ノ一ヲ互選スルモノトス若端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ選舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ選舉スヘ

キ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期改選ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改選スル場合ヲ除クノ外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主トハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受クル所有地ニシテ地價總計一萬圓以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自ラ選舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選權ヲ有ス

住居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失ハサルトキハ仍郡會ノ被選權ヲ有ス
左ニ掲クル者ハ選舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府東京府ハ警視廳トモ縣並ニ其郡ノ官吏

二 其郡ノ有給吏員

三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ニ應シ又タ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ本屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 大地主ニシテ選舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル

年齢二十歳未滿ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ選舉權ヲ有セサルモノトス

大地主ノ選舉權ハ身代限處分中又ハ租税滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ勾留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 選舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ選舉ヲ行フコトヲ得
陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ選舉ヲ行フ
コトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ
限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ
以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第二項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノト
ス但其代人ハ郡會ニ被選舉權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者
ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ每三年其半數ヲ改選
ス若其員數二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム

初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ
定ム

大地主ニ於テ選舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ每三年其全數ヲ改
選ス

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十四條 議員中闕員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕選舉ヲ
行フヘシ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改選前選舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之
ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ
關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十
一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會
ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴ス

ルコトヲ得

八

大地主名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改選前ニ行フヘキ補闕選舉ニモ亦適用スルモノトス但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ選舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改選ノ期限内新ニ選舉權ヲ得又ハ選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲改選スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登録ニサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ選舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 選舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ

町村ニ於テ行フ選舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會會同シテ行フ選舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ選舉會長トシテ之ヲ行フヘシ

第十八條 大地主ニ於テ選舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 郡長ハ遅クトモ選舉ノ日ヨリ七日前選舉人ニ招集狀ヲ發シ選舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ

二 選舉掛ハ選舉會長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及選舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス
選舉會長ハ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

三 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス

四 投票ハ選舉人自ラ選舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス

投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
- 二 被選舉ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 三 被選權ナキ人名ヲ記載スルモノ
- 四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ列記ノ被選人ニ付テハ仍其効アリトス

投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉會長之ヲ決ス

六 有効投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取り年齡相同キトキハ選舉會長自ラ抽籤シテ其

當選ヲ定ム

七 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ

八 投票ハ選舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 選舉ヲ終リ當選人定マリタルトキハ町村會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ町村長數町村會會同シテ行フ選舉及大地主ニ於テ行フ選舉ニ在テハ選舉會長直ニ當選人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ選舉ニ應スヘキコト及選舉ニ依ラスシテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ選舉ニ當選シタルトキハ其選舉ニ應スルコト又ハ應セサ

ルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ
前二項ノ届出ヲ其期限内ニ爲サ、ルトキハ選舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

町村ノ選舉ニ應スル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖二重ニ其權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

第二十條 議員ノ當選ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ選舉ヲ行ヒ又ハ町村長ニ命シテ更ニ選舉ヲ行ハシムヘシ

第二十一條 當選人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十二條 選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十三條 當選人其當選ノ際資格ノ要件ヲ有セサリシコト發覺ス

ルトキハ其當選ハ無効トス

當選人當選後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セサル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被選權ノ有無及選舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁

決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ヲ認定スル事
- 三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事
- 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ

及權利ノ棄却ヲ爲ス事

五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事

其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス

第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得

第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

郡會ハ其郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第二十九條 郡會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委嘱ヲ受クヘカラサルモノトス

第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス

郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長代理者一名ヲ互選スヘシ

議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互選スヘシ

第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議

事ニ參與スルコトヲ得但議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ

第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得

郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ招集スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

郡會ハ郡長之ヲ開閉ス

第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十六條 郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ第十八條四ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ

第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス

一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルト

キ

議長又ハ議員ノ發議ハ討論ヲ用ヰスシテ其可否ヲ決スヘシ

第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日

ノ會議ヲ開閉シ並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル

議員アルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシ

ム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ

又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者アルトキハ警察官

ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ

之ヲ閉ツルコトヲ得

第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事

ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキ

ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官ノ處分ヲ求ムルコ

トヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第四十三條 郡會ニハ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム書記ハ議長之ヲ選任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ顛末並ニ出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認

可ヲ受ケテ之ヲ施行スヘシ

第三章 郡參事會吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス

名譽職參事會員中三名ハ郡會ニ於テ其議員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ選任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議長代理ヲ互選スヘシ

第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ノ補充員三名ヲ互選シ其名譽職參事會員ノ闕員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽職參事會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期限

ノ後ト雖後任者就職ノ日迄在職スルモノトス
郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ
仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘ
シ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
- 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ルトキ郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事
- 三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
- 四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事

五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事

六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事

七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ檢査スル事

其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス

第五十一條 郡參事會ハ郡長之ヲ招集ス

會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ

第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第五十三條 郡參事會ハ議長又ハ其代理者及會員半數以上出席スル

ニ非サレハ會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上

之ニ署名スヘシ

二十二

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ滿タシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシ二府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス
郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ
前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ其旨ヲ記入スベシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應スル迄郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得
非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ郡長ハ郡參事會員ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得
本條ノ處分ハ次回ノ郡會會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニヨ

リ郡ノ費用ヲ以テ郡有財産又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得但其郡吏員ハ他ノ郡吏員ニ準シ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員ノ給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ郡有財産及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得

委員ハ郡會ニ於テ之ヲ選舉ス其選舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル
委員ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財産及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用

第五十八條ノ郡吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財産ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ツルモノ、外ハ郡内各町村ニ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ增課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲己ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ

利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限り勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ

郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但郡參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長

ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並

ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財産表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫備費ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ

郡參事會ノ議決ヲ經テ己ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及每年少クトモ一回臨時検査ヲ爲スヘシ検査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會ヲシテ之ヲ檢

査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ
決算報告書並ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算ハ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決ニ不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ
此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル

日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願
スルコトヲ得ス

第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯
亂澁滞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シ
テ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並ニ實地ニ就テ
事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ
又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督
官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシ
メ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權
限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合
ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコト

ヲ得

第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ
負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト
雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ
原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムル
トキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得
第七十七條 郡會招集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知
事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ
第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサ
ル場合ニ於テ其事緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其
指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セサル議案歳入出豫
算ニ係リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金

額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不急ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ内務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ改選スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改選郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得

郡會解散ノ後改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得
前項ノ處分次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ縣府知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期内ニ議決ヲ變更スル事

第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村

ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フベシ

第八十五條 嶋司ヲ置カザル嶋嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ撰擧スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フベシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ於テモ亦適用ス

第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第二百二十六條第三ニ定ムル附加税徴收ノ許可ハ地租七分ノ一五十四分ノ三ヲ超過スルトキ之ヲ

要スルモノトス

第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ地ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十一條 内務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲必要ナル命令ヲ發布スヘシ

全 明治廿三年十一月十二日印刷
十一月十二日出版

兼發行
編輯者

編輯者

全

全

印刷者

(定價金五十錢)

井 本 常 治
神田區仲猿樂町十七番地

鈴 木 敬 親
神田區裏神保町七番地

鹽 入 太 輔
神田區小川町四十一番地

佐 々 木 忠 藏
神田區裏神保町七番地

齋 藤 孝 治
全 裏神保町四番地

東京神田區裏神保町七番地

發賣所 明法堂

W323.8

M173

最高裁判所図書館



000126792

